

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	クオリスキッズ水道橋保育園
施設所在地	東京都文京区本郷1-14-7

1. 活動のテーマ

<テーマ>

～食育～ 食に対する感謝の心、食の由来を知る 命のサイクルを学ぶ

<テーマの設定理由>

<p>(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)</p> <p>普段、給食や家庭の食卓で主食として親しまれ、食べられているお米。当たり前のように食しているこのお米が、どのようにして自分たちのもとに届くのか？どのようにして「お米（ご飯）」になったのか？またお米はどこでどのように育ち、どれだけの人の手や労力がかかっているのか？</p> <p>昨年度の食育の中で、新米の時期（秋）にお米の話を栄養士から聴き、興味を持った子どもたち。食べ物があふれている現代の環境の中で、子どもたちが一つの食物がどのようにつくられ、どんな育ちを経て、このお米というものになるのか？紙芝居で見ていたところから実際の育成を提案。</p> <p>バケツ稲でお米づくりに挑戦！</p> <p>保育の中にバケツ稲の育成を取り入れ、米作りを学び、ご飯になるまでの経緯を体験し、「命をいただく」という食の大切さを実感することで、食への感謝の心を育てる。</p> <p>実際に秋田のお米農家の方との連携をもとに、オンラインで実際の田んぼの様子を見せてもらいながら、米作りを体験し、食に関しての興味を深めること、また食べ物を大切に思い残さず食べようとする姿につながることを願う。</p>
--

2. 活動スケジュール

< 活動スケジュール >

- 6月 苗植え
- 7月 案山子づくり
- 8月 出穂
- 9月 登熟
- 10月 稲刈り
- 11月 脱穀

※日々の水やりと観察はその都度行う。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

<活動の為に準備した道具類>

- ・バケツ
- ・土 (黒土・赤玉土・鹿沼土)
- ・案山子づくりの材料 (Tシャツ・帽子・布・段ボール等)

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

秋田のお米農家の方とオンラインをつなぎ、実際の田んぼを見せてもらいながら、バケツ稲の育生をする。

日々の水やり、観察をする。

ハプニングがありながら、子ども会議を繰り返し行い子どもたちの気持ちの動きや、行動を大切にしながら約8か月米作りに取り組んだ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

日々大きくなる稲に、期待を膨らませ保護者と共に観察を楽しむ姿が多く見られた。成長の様子を保育者に伝え、クラスで共有し喜んでいた。稲が鳥に食べられ枯れてしまうというハプニングが起こるが、ショックを受けながらもこれからどうしようと話し合い最後まで進めてこれた。収穫はできなかったが、その分子どもたちが経験できた感情、出来事がありそれが豊かな学びになったと感じる。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

活動を進める中で、子どもたち同士の会話や気づきが多く生まれ、稲の生長を見守りながら「どんなお米ができるのだろう」と期待を膨らませる姿が見られた。

しかし、花が咲き実がつき始めた頃に取りに食べられ、稲が枯れてしまうという出来事が起こり、子どもたちはショックや悲しみ、怒りなど様々な感情を経験することとなった。

それでも「何がいけなかったのか」「これからどうしたらよいのか」と話し合い、分からないことは農家の方に聞くなど、最後まであきらめずに取り組む姿が見られた。

この過程は子どもたちにとって大きな学びの機会となり、保育者にとっても子どもたちの柔軟な発想や探究心に多くの気づきを得る時間となった。

また、稲の生長を長い期間見守る経験を通して、お米ができるまでには多くの時間と手間がかかることを実感し、「ご飯は感謝して食べなければいけない」「簡単にできるものではない」という思いが子どもたちの中に育っていったように感じる。

給食の時間には「お米には1000人の神様ががついているから残したらだめなんだよ」といった子どもたちの言葉が聞かれるようになり、食べ終わった後に「一粒も残ってないよ」とお皿を見せる姿も多く見られるようになった。こうした姿から、食べ物を大切にしようとする気持ちや食への感謝の心が育まれていることを実感している。

今回の米作りは収穫までには至らなかったものの、子どもたちが食べ物の背景にある自然や人の営みに触れ、食への理解と感謝の気持ちを深める貴重な経験となった。

自然に触れる機会が限られている都市部の保育園において、このような体験を園内で実践できたことは、子どもたちにとっても保育者にとっても学びの多い取り組みであった。

また、「お米は取れなかったけれど、育てた稲を大切にしたい!」という子どもの気持ちを汲み、お正月のしめ縄を提案した保育士。

最後まで、このお米作りに諦めずに向き合い子どもと共にクラス一つになり形を残した経験もまた、子どもにとっても保育者にとっても豊かな経験となったと感じる

今後も子どもたちの気づきや探究心を大切にしながら、生活や食につながる体験を積み重ねていきたい。



すくわくプロジェクト

バケツ稲作り



テーマ：食育（感謝の心、食の由来を知る）命のサイクルを学ぶ

普段、給食や家庭の食卓で主食として親しまれ、食べられているお米。

当たり前のように食しているこのお米が、どのようにして自分たちのもとに届くのか？

どのようにして「お米(ご飯)」になったのか？またお米はどこでどのように育ち、どれだけの人の手や労力がかかっているのか？

昨年度の食育の中で、新米の時期(秋)にお米の話を栄養士から聴き、興味を持った子どもたち。

食べ物があふれている現代の環境の中で、子どもたちが一つの食物がどのようにつくられ、どんな育ちを経て、このお米というものになるのか？紙芝居で見ていたところから実際の育成を提案。

バケツ稲でお米づくりに挑戦！

保育の中にバケツ稲の育成を取り入れ、米作りを学び、ご飯になるまでの経緯を体験し、「命をいただく」という食の大切さを実感することで、食への感謝の心を育てる。

実際に秋田のお米農家の方との連携をもとに、オンラインで実際の田んぼの様子を見せてもらいながら、米作りを体験し、食に関しての興味を深めること、また食べ物を大切に思い残さず食べようとする姿につながることを願う。

< 活動スケジュール >

- 6月 苗植え
- 7月 案山子づくり
- 8月 出穂
- 9月 登熟
- 10月 稲刈り
- 11月 脱穀

※日々の水やりと観察はその都度行う。

<活動の為に準備した道具類>

- ・バケツ
- ・土（黒土・赤玉土・鹿沼土）
- ・案山子づくりの材料(Tシャツ・帽子・布・段ボール等)

< 土づくり >

・土を作るところからスタート！！

必要な材料を年長児と一緒に買いに行く。

買い物の帰り道、バケツの中に入った材料を入れ各々でバケツを持ち、帰園しようとする中、途中で土のあまりの重さに「先生もう無理～！」ととわ値をはいていましたが、そう言いながらも「おいしいお米を作るんだ！」と頑張り、持ち手を変えながら無事に園まで持ち帰る事ができた。

園に着く早速、土作りスタート。買って来た材料を保育士と一緒に確認する。

農家さんとのやり取りをしているので、送られてきた手順を見ながら土づくりをする。

始めは、さらさらだった土が水を加えていく毎にネチヨネチヨしてきて・・・

段々重くなり混ぜるのが難しくなる。

「なんだこれ？」と初めての体験に不思議さを感じながら、汗をかき一所懸命取り組む姿がほほえましい。

土の感触を楽しみながら混ぜ、完成！



・6月～7月

< 田植え、成長の見守り >

当初、園舎入り口近くに置いていたバケツ苗。

その場所だと日照時間が短く、育ちの悪さを感じたため、日の当たるところにバケツを移動させた。

毎日の水あげ、成長過程を子どもたちと一緒に世話、観察。始めは、少ししか成長していなかった稲も日を追うごとに少しずつ成長し登園時親子で見て「先生伸びてたよ！」などと報告してくれる。

保育者は、ほんの少しの成長と感じていても子どもにとっては、少しの成長も大きかったようだった。



7月 案山子づくり！

お米農家の宮城さんからのお願いで、
秋田の田んぼを守る案山子を作ってください！
と連絡が来た！案山子ミッション始動！！
「え～？？案山子？」「案山子ってなあに？？」から話は始まる。
田んぼを守る…人形？？ よ～しやるぞ！！
いざ！作るとなったら…
「こんな風にしたい！」「こんなの持たせたい！」いろんな案が出てきます。
保護者へこの姿を発信！

ドキュメンテーション日誌にして園内に掲示しました！



※別紙参照



・8月～10月 出穂

穂が出て花が咲き始めました。
保育者が穂が出ていることに気づきお米の話題を会話に出してみると…
「見に行こう！」と年長児！足早に部屋出て向かう姿がありました。
化ける稲を見ると…穂が出ている様子を見て「本当だ！！」と、
目まを丸くして成長を喜ぶ姿がありました。

そこからの疑問。

★ 普段食べているお米は、白い。今見ているお米の色は緑色！

「先生これ食べるの？」

保育士：食べられないかな？どう思う？

★子どもたちの中で考え、出た答えは緑色の袋の中に
白いお米が入っているんだ！と予想。本当かな？

そこからの更なる疑問。

★ 給食で時々玄米が出る！「じゃあ何で玄米は少し茶色が混ざってるんだ??」と
不思議に思う子どもたち…さて、それはどうなのでしょう？



案山子を作ったよ



経緯…

お米を作るにあたり育て方などを教えてくれるリモートがあり、そこで教えてくれるお米のみやぎさん。

リモートでは、子どもたちの質問や実際にみやぎさんの育てているお米を見せてくれたりします。

そんなみやぎさんからの依頼で案山子を園で作ることに…。



みやぎさん 🍷

作りながらも、帽子をかぶり「可愛い」とみんなで代わる代わるかぶる。

かかしになりきるこうきくんの姿も…。可愛らしいです ♡



始めは、どんなかかしにしたいかみんなで話し合いからスタート。帽子をかぶせタオルを巻きズボンの色も決め、ランドセルも背負わせたいと案がでました。作っていくうちにきこちゃんがランドセルに教科書を入れたいと…

ランドセルの中に教科書も作り入れました。作っていくうちに色々な考えがでてきた子どもたち。作りながら色々なアイデアが出てくることを大切に今後の活動でも色々なアイデアを取り入れていきたいです。

大事件ですっ！！！！

穂が出て花が咲き始め数日たったころのこと…

朝、保育園に着くと全部の稲が倒れて、ぐちゃぐちゃになっていました！！

大変だっ！子どもたちに知らせて、一緒見に行くと

「どうしてこうなったの??」「誰かがやったんだ!」「もうかれちゃったのかな?」「カラスやすすめが食べた?」色々な想像が巡り…いつもオンラインでお世話になっているあぐりっぴの宮城さんに写真を送り、相談してみました。

宮城さんからのお返事は、やはり何らかの鳥に食べられてしまったとの事

その日、緊急子ども会議を開きました。

枯れてしまい、鳥に食べられてしまった事を伝えました。子どもたちはショックのあまり「もう～鳥め!!!」と怒る姿や、「ネットつけてないから食べられたんだ」など反省したり…色々な事が口々にでていました。みんなの思いを聞いた上で宮城さんにアドバイスをもらう。

枯れてしまった部分をカットし、もう一度同じようにに育てたらまた穂が咲くかもしれないから、やっpegらんとアドバイスをいただき、「よし！またやろう!」と意見がまとまりました。

再び1からスタートです。



11月 登熟

残念ながら、再び育てた稲はなかなか育たず、お米はわずか数粒。

観察できるほどではありませんでした。

水やりも終わり、時々見に行っても生長に変わりはなく、

子どもたちは興味が薄れてしまったのか？足を運ぶ回数も少なくなりました。

12月 稲刈り（稲刈りの動画視聴）

子どもたちに今ある稲だけでも狩ろう!と稲刈りの橋をする。

それでも、子どもたちにとっては自分たちの稲はやはり宝物。

ハサミで、わずかばかりの稲の収穫をしました。

脱穀、もみすりができるほど育ていなければ、

お米がとれるような状況でもなく。

その後のお米の飼育は、宮城さんから送られてくる写真付きの説明文や絵本、ZOOMの配信で学びました。

収穫した稲は、わずかでも洗濯ネットに入れ風通し良い場所へ干しました。



稲刈りその後の様子

数日たち、子ども会議の開催！保育士から子どもたちに提案！

枯れてしまった稲をどうにか何かに生かせないかと。

子どもたちと相談を重ね、年末年始が近づいていることもありお正月に向けてしめ縄にするのはどうか？との話しになり「それやってみよう！」と、決まり！

しめ縄づくりをすることにしました。保育者でもバラバラになった稲をまとめることが難しいくらいの状態の稲。尚且つそれを捻りながらしめ縄にしていく作業に苦戦しました。子どもたちは、自分の手に持ちきれくらいの稲を手に取り挑戦していましたが、「できない」「どうやってやるの？」など奮闘しながらも頑張っていました。



米作りの取り組み 総括

本園では「食の由来を知り、食に対する感謝の心を育てる」ことをテーマに、子どもたちと共に米作りに取り組んだ。活動を進める中で、子どもたち同士の会話や気づきが多く生まれ、稲の生長を見守りながら「どんなお米ができるのだろう」と期待を膨らませる姿が見られた。

しかし、花が咲き実がつき始めた頃に取りに食べられ、稲が枯れてしまうという出来事が起こり、子どもたちはショックや悲しみ、怒りなど様々な感情を経験することとなった。

それでも「何がいけなかったのか」「これからどうしたらよいのか」と話し合い、分からないことは農家の方に聞くなど、最後まであきらめずに取り組む姿が見られた。

この過程は子どもたちにとって大きな学びの機会となり、保育者にとっても子どもたちの柔軟な発想や探究心に多くの気づきを得る時間となった。

また、稲の生長を長い期間見守る経験を通して、お米ができるまでには多くの時間と手間がかかることを実感し、「ご飯は感謝して食べなければいけない」「簡単にできるものではない」という思いが子どもたちの中に育っていったように感じる。

給食の時間には「お米には1000人の神様がついているから残したらだめなんだよ」といった子どもたちの言葉が聞かれるようになり、食べ終わった後に「一粒も残ってないよ」とお皿を見せる姿も多く見られるようになった。こうした姿から、食べ物を大切にしようとする気持ちや食への感謝の心が育まれていることを実感している。

今回の米作りは収穫までには至らなかったものの、子どもたちが食べ物背景にある自然や人の営みに触れ、食への理解と感謝の気持ちを深める貴重な経験となった。

自然に触れる機会が限られている都市部の保育園において、このような体験を園内で実践できたことは、子どもたちにとっても保育者にとっても学びの多い取り組みであった。

また、「お米は取れなかったけれど、育てた稲を大切にしたい！」という子どもの気持ちを汲み、お正月のしめ縄を提案した保育士。

最後まで、このお米作りに諦めずに向き合い子どもと共にクラス一つになり形を残した経験もまた、子どもにとっても保育者にとっても豊かな経験となったと感じる

今後も子どもたちの気づきや探究心を大切にしながら、生活や食につながる体験を積み重ねていきたい。

心を込めてお米を大切に育ててみよう！ バケツ稲の育て方

ご注意！

苗が到着したら、すぐに袋から出し、水をたっぷりあげてください。
また、到着後1週間以内に植え替えをお願いいたします！



用意するもの



バケツ 稲がのびのびと育つように、直径が30cm以上あるものがおすすめです。

● 10リットル～13リットルのバケツを用意しましょう。

※プランターを使用する場合は、内側にビニールを敷いてから土を入れるようにしてください



土 「黒土」「赤玉土」「鹿沼土」を6:3:1の割合で混ぜたものがおすすめです。

プランターなどで使用した土を再利用する場合は、水を早めに張り、土をやわらかくしておきましょう。土が固い場合はほぐしてください。

園芸店やホームセンターでも土を購入できます。肥料入りの土でも問題ありません。

※土の中に根や茎が残っていても大丈夫です

苗を植える準備



バケツに土を入れましょう。
バケツの縁から5～10cm下がったところまで土を入れてください。



土と水が馴染みやすいように、
水を張る前に土を平らにします。



土の表面に水が少したまるくら
いまで水を入れます。

苗の植え方



土の表面から5cmくらいの深さまで手でかき混ぜます。表面から2cmくらいは、さらにどろどろになるまでかき混ぜます。土と水を馴染ませるために10分くらいおいてください。



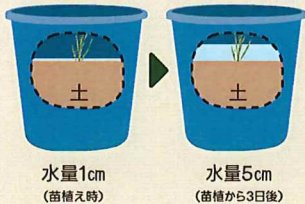
苗を3~5本、下のマット(綿のようなもの)ごとつまんで束ねます。苗が少ないと感じるかもしれませんが、成長すると新しい芽が出現する「分けつ」が起こり、苗がどんどん増えていきます。



バケツに苗を植えましょう。束ねた苗(3~5本)をバケツの中心に植えます。植える時の深さは人差し指の第2関節(約5cm)くらい、子どもは人差し指の付け根くらいが目安です。

苗のお世話

水量は苗を植えて3日ほどは1cmの深さ、以降は5cmの深さを保ってください。



雑草が生えたら根ごと抜いてください。

稲と雑草を見分けるには、節の部分にある「葉舌」という三角形の突起を確認してください。



稲の長さが50~60cm(莖数20本程度)で一度水を捨て、中干しを行ってください。



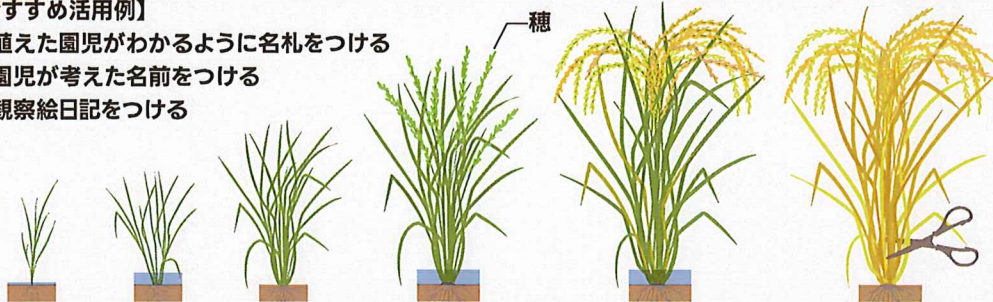
穂が出たらネットをかけてスズメなどから稲を守りましょう。



稲の観察

【おすすめ活用例】

- ①植えた園児がわかるように名札をつける
- ②園児が考えた名前をつける
- ③観察絵日記をつける



6月

苗の本数が10倍位増える!

7月

稲が50cm程度、20本以上になったら中干しをする

8月

穂が出て花が咲く
開花時間は10時頃の約2時間

9月

稲穂の粒が膨らみ、実が黄色く熟す

10月

いよいよ稲刈り!

■生育のポイント

中干し

バケツの水を捨て、土の表面を乾かす作業です。稲の長さが50~60cm程度、莖数が20本以上になったら行います。土にひび割れができ、バケツから土が剥がれて浮いてきたら、バケツに水を入れ、水位を5cmに保ちます。
※ひび割れまで10日程度かかります
※中干し中に水を与える必要はありません

稲刈り

お米を収穫する作業です。実が膨らみ、熟して黄金色になったらバケツの水を捨てます。雨が当たらない場所で10日程度そのまま乾かしたら、ハサミなどで根元を切り取ります。切り取った稲は、紐などで縛り、穂を下にして風通しの良い場所で更に10日程乾かします。
※ネットをかけて鳥などから実を守りましょう

「あぐりっぴLETTER」では、お子様が動画で学ぶ内容や、LIVE配信での質問などを保護者の皆様にお伝えします。

6 June 2025

あぐりっぴ

LETTER

6月のテーマ

田植え

おいしいお米がたくさん収穫できるように、田植えを行います。

丁寧に育てた苗を田んぼに植える、お米作りの非常に大切な工程です。

子どもたちは、田植えの様子を見て学び、お米作りにもチャレンジします。

① 田植えのヒミツ！

1つの田んぼ(1丁歩)から、動物のソウ1頭分のお米が収穫できること、田植えには、昔ながらの手で植える方法と、現代の便利な機械(田植え機)を使う方法があることを学びます。



② 稲の生育にチャレンジ！

園では子どもたちが「バケツ稲」で稲の生育チャレンジがスタートします。土づくりや、田植え、水やりや、生えた雑草を抜くなどのお世話をし、お米ができるまでの過程を楽しみます。

学びを深める 親子の会話

天野ひかり

お子様の学びがより深まるように
ご家庭での会話にご活用ください。

お子様は、お米の種から15cmほどに育った稲を“田植え”することを学びます。ご家庭では、お米とは別の“種”を親子で見つける会話をぜひ楽しんでみてください。

「ピーマンには種がぎっしりだね」「トマトは種も食べてたんだね」「ピワにはこんなに大きい種があるね」など、「この種を植えたら、芽が出るのかな?」と興味を持って会話を膨らませてみるのがおすすめです。

そして、「種の栄養になるところをおいしく食べているんだね」と命の恵みに感謝したいですね。そんな会話の後の「いただきます!」は、お子様の声が弾むことでしょう。

次回のテーマは「田んぼの生き物」です

「あぐりっぴ」については裏面をご覧ください。

©GKS あぐりっぴ®

「あくりっぴLETTER」では、お子様が動画で学ぶ内容や、LIVE配信での質問などを保護者の皆様にお伝えします。

7 July 2025

あくりっぴ

LETTER

世界遺産「白神山地」が育む！おいしいお米作りの七田

7月のテーマ

田んぼの生き物

特別栽培米を作っている田んぼには、多様な生き物が生活しています。

お米の健康を守ってくれる生き物は、米農家のサポーターです。

子どもたちは、田んぼのお米を守るため、案山子づくりにもチャレンジします。

① 田んぼの生き物のヒミツ！

カメムシはお米の汁を吸ってしまうこと、小さなクモがカメムシを食べてお米を守ってくれることなどから、田んぼに生きるたくさんの生き物の関係性を学びます。



② 案山子づくりにチャレンジ！

園では子どもたちが「案山子づくり」にチャレンジします。つくった案山子は、秋田県能代市の田んぼに設置し、子どもたちが園で食べるお米を守ってくれている様子をLIVE中継します。



学びを深める 親子の会話

天野ひかり

お子様の学びがより深まるように
ご家庭での会話にご活用ください。

お子さんは、「たんぼの生き物」の動画を見て、稲を枯らす虫もいれば、ミミズやトンボのようにお米が育つ助けになる生き物がいることを学びました。

今回は、親子で、「身近にいる生き物」を感じる会話を楽しんでみてください。帰り道に「ミーソミーソ鳴いてるね」と一緒に樹を見上げてセミを探したり、アリが列をなしていれば「どこまでつながっているんだろうね」と巣を一緒に見つけたり。お子さんが興味を持てば「飼ってみる？」と虫取りに挑戦するのも面白そうです。

何か特別なことをしなくても、まずは、身近な命に気づく会話がおススメです。

次回のテーマは「出穂」です

「あくりっぴ」については裏面をご覧ください。

©GKS あくりっぴ®



案山子づくり体験

< 手順書 >

あぐりっぴの案山子づくり体験では、子どもたちが自由な発想で個性豊かな案山子づくりを楽しめるように、本体及び看板の「装飾用フレームキット」をご用意しています。

活動のねらい

案山子づくり体験をととして

- ・自然とのつながりを感じ、お米作りへの関心と感謝の気持ちを育む
- ・想像力や表現を楽しみながら、協力する大切さを感じる

園で用意するもの(例)

用具

- ハサミ ● 接着剤 ● ペン・マジック ● 養生テープ ● 軍手

※園児が安全に使用できる用具をご用意ください

材料

- 布 □ 毛糸 □ スズランテープ □ 古着 □ ストッキング
- 麻紐 □ 新聞紙 □ プチプチ緩衝材 □ 帽子 □ 軍手
- 結束バンド □ 布テープ □ カラーポリ袋 □ バンダナ □ ペニアやボール紙(看板用)

※材料は必要な物を園でご用意ください

※釘や針金などの金物は危険ですので絶対に使用しないでください

※雨風に耐えられる素材を使用してください

※不燃材料(ガラス・アルミ・FRP)は使用しないでください

作り方



案山子

フレームを組み立てる

- ・細い塩ビ管のキャップを片方外す
- ・太い塩ビ管の穴に細い塩ビ管をとす。
- ・外したキャップをはめる



胴体をつくる

- ・古着をフレームに着せる
- ・中に新聞紙や緩衝材を詰める
- ・ズボンや紐やテープで固定する



頭をつくる

- ・布などで丸い形をつくる
- ・中に新聞紙や緩衝材を詰める
- ・首の部分を紐などで縛る
- ・胴体の上に取り付ける



手と足をつくる

- ・軍手等に緩衝材などを詰めて袖口につける
- ・足をつくる



装飾する

- ・帽子を被す
- ・ペンやマジックで顔を描く
- ・必要に応じて防水対策をする



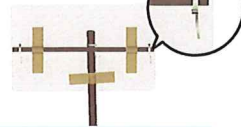
看板

フレームを組み立てる



看板をつくる

- ・施設名を書く
- ・絵などを描いて装飾する



フレームに固定

- ・防水(透明ビニールなどで看板を包む)
- ・風対策(テープや結束バンドでしっかり固定)



完成イメージ



ビニールで覆ったり、紐で固定するなど、雨風に耐えられる工夫をお願いします!

「あぐりっぴLETTER」では、お子様が動画で学ぶ内容や、LIVE配信での質問などを保護者の皆様にお伝えします。

8 August
2025

あぐりっぴ

LETTER

世界遺産「白神山地」が育む！おいしいお米作りのヒミツ。

8月のテーマ

出穂

お米がおいしく育つには、朝晩の温度差が大事です。

子どもたちが食べるお米は美味しさを蓄えていく時期に入りました。

今回子どもたちは、お米の卵が成長していく様子を学びます。

① 中干しのヒミツ！

田んぼの水を抜き、土の表面を乾かす「中干し」はお米の根が強く大きく育つ上で大切な過程です。子どもたちは動画で「中干し」の様子を学び、自分たちが園で育てているお米で「中干し」に挑戦します。



② 出穂のヒミツ！

茎の中から穂が出てくる現象を「出穂」といいます。稲穂の粒粒は短時間だけ花を咲かせ自家受粉するとすぐに閉じてしまいます。開花はごくわずかな時間なので、見たことがある人は少ないです。



学びを深める 親子の会話

天野ひかり

お子様の学びがより深まるように
ご家庭での会話にご活用ください。

お子さんは、お米の茎の中から穂(お米の粒粒)がでてくる“出穂”を学びます。お米のお花が咲いた後に稲穂ができてお米が育っていく様子です。

今回はぜひ、お子さんと一緒に身近なお花が咲いた後、どうなるのかを観察してみてください。朝顔やひまわりなどを道で見つけたら「お花咲いてるね。この後どうなるんだろう？」と聞いてみてください。毎日見てみると、徐々に膨らみ、種ができることがわかります。「お花が咲いた後、種(実)ができるんだね」「他のお花はどうか？」「その種を植えたら、芽が出るのかな？」ぜひ親子で植物に触れて会話しながら親子で観察を楽しんでくださいね。

次回のテーマは「登熟」です

「あぐりっぴ」については裏面をご覧ください。

©GKS あぐりっぴ®

「あぐりっぴLETTER」では、お子様が動画で学ぶ内容や、LIVE配信での質問などを保護者の皆様にお伝えします。

9 September
2025

あぐりっぴ

LETTER

世界遺産「白神山」が育む、おいしいお米作りのヒミツ

9月のテーマ

登熟

田んぼでは、秋の訪れを知らせる鈴虫やコオロギなどの虫の音が聞こえるようになりました。子どもたちが制作した48体の案山子は地域の話になり、風で飛んでいきそうな案山子のお洋服を地元の方たちが整えてくれている姿も見かけます。今回子どもたちは、収穫前の大事な時期、お米が栄養を溜めて、大きくなっていく様子を学びます。

① 登熟のヒミツ！

最初は小さかったお米の粒々が栄養を溜め、だんだん膨らんでいく様子を観察します。乾燥を終え硬くなったお米を見慣れている子どもたちは、登熟期にはお米の中身がまだ白い液体ということに、とても驚くことでしょう。



② 収穫前のお米を守るヒミツ！

収穫前のお米は栄養たっぷり、山に住む動物の大好物です。大事に育てた田んぼのお米を動物から守るため、案山子を立てたり、大きな音や光で山に追い返す仕組みがあることを学びます。



学びを深める 親子の会話

天野ひかり

お子様の学びがより深まるように
ご家庭での会話にご活用ください。

お子さんは、稲穂に沢山ついているお米の赤ちゃんがどんどん栄養を溜めて大きく成長していく“登熟”を学びます。

ご家庭でもお米の育つ（登熟）様子を重ねて「みんなもこうして大きくなったんだね」とお子さんが、発育、成長を実感できるような会話を交わしてみてください。

今日はぜひ、お子さんが赤ちゃんだった時の写真や動画を一緒に見て「小さかったあなたが、こんなに大きく育ったね」と成長を振り返ってみましょう。「手も足も小さかったね」「ぐんぐん成長していてママもパパも本当に幸せ」「これからもっと成長するのが楽しみね」など、親子でお子さんの成長を応援する会話を楽しんでくださいね。

次回のテーマは「稲刈り」です

「あぐりっぴ」については裏面をご覧ください。

Copyright © 2024 GKS Corp. All Rights Reserved.

「あくりっぴLETTER」では、お子様が動画で学ぶ内容や、LIVE配信での質問などを保護者の皆様にお伝えします。

10 October
2025

あくりっぴ

LETTER

世界遺産「白神山地」が育む！おいしいお米作りのヒミツ。

10月のテーマ 稲刈り

いよいよ待ちに待った収穫です。子どもたちが作った案山子が見守った稲は
すくすく成長し、美しい黄金色に輝いています。
今回は最終回！子どもたちは、収穫～籾摺り～精米の工程を学びます。

① 稲刈りのヒミツ！

稲刈りには、鎌を使って手作業で一束ずつ刈っていく方法と、大型の機械（コンバイン）で田んぼの中を走りながら勢いよく刈っていく方法があることを学びます。



② 白いお米にするヒミツ！

収穫したお米（籾）はそのまま食べられません。硬い籾殻と茶色い糠に包まれています。それらを取り除く専門の機械の働きを動画で詳しく観察します。手作業で同じ工程をして、ちがいを学びます。



学びを深める 親子の会話

天野ひかり

お子様の学びがより深まるように
ご家庭での会話にご活用ください。

お子さんは、「稲刈り」と「籾を白いお米にするまで」を学びます。親子で、収穫の喜びを体験できるといいですね。大根やさつまいも掘りなど、自分で収穫すると普段よりたくさん食べるようになります。近くで収穫する機会がない場合は、親子で、泥付きの里芋やごぼうを買ってきて、たわしでゴシゴシ擦って白くする体験をするのもオススメです。「大地の匂いがするね」「根っこからお水を吸ってたんだね」「茶色の皮の中は、白いね！」「自分で洗った野菜はおいしいね」。
お日様と土とお水と農家さんに感謝して親子で美味しくいただきましょう。

自然の恵みたっぷりのおいしいお米がたくさん実りました！

「あくりっぴ」については裏面をご覧ください。

Copyright © 2024 GKS Corp. All Rights Reserved.

脱穀・もみすり・精米の方法 ①～③の手順で行ってください。



① 脱穀をする



■用意するもの:洗って乾かした牛乳パック

稲穂は乾いた状態のものを使用してください。

- ①牛乳パックの中にもみ部分をいれる
- ②牛乳パックの口を閉じて指でギュッと抑える
- ③茎をゆっくり引っ張る

★稲穂からはずれたもみは、牛乳パックの底に溜まります。

② もみすりをして玄米にする



■用意するもの:すり鉢・ゴムのボール(すりこぎ)

- ①もみをすり鉢に入れる(入れる量はひと握り程度)
- ②ゴムボールで円を描くようにすり鉢の真ん中から少しずつすり上げる動作を繰り返す
- ③粳が取れたらそっと息を吹きかけると粳殻だけが飛ぶ(飛び散るため屋外または飛び散っても良い場所で行う)



息を吹きかけると殻が飛び散ります!

ご注意!

もみすりですり取れた殻は非常に硬く尖っているため、目に入ったり、足で踏まないようにしてください。



取れたもみ殻をバケツ稲の土に混ぜると肥料になります!

③ 玄米を精米する



■用意するもの:ガラスのビン(厚手推奨)、すりこぎ棒、ざる(糠のふるい用、あれば使用)

- ①ガラスのビンに玄米をいれる
- ②すりこぎ棒で糠を落とすように、上下にトントンとつく
- ③糠が取れたら手で払うなどして白米を取り出す(ざるがあれば使用しても良い)

★この作業で市販の白いお米のようにするには数日かかります。

ご注意!

・ガラスの割れに注意! 強く打ちつけず、一定のリズムで行いましょう。
・瓶が倒れにくい固定できる場所で行いましょう。

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都文京区本郷 1-14-7
園名	クオリスキッズ水道橋保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「数字・図形」

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

散歩時の「あれって〇〇みたい!」、「あの建物の〇〇に似てる!」という子供たちが日々興味関心をもつ姿を見て今回このテーマを設定いたしました。日常生活の中で見る景色で大人は意識はしないが、子供たちが気づく不思議な形をしたものがたくさんあります。そういった子供たちが関心をもったものを探求し、どういった形なのだろうと疑問に思うことを探求する。

土地柄、いろいろな形の高層ビルやモニュメントが多くあり、それらを活用できると考えてテーマを設定しました。

遊びの中で数字・図形を別々で親しむことはあったがつなげて遊びの中に取り入れることで、自ら考える楽しさを友達と一緒に考え思考力を育むことにつなげていく。

2. 活動スケジュール

自ら進んで考え楽しく意欲的に取り組めるように、数字について知らせ図形と数字も一緒に繋がられるように活動の中で取り入れ、月に1回行い、1回に行う時間を30分程度にして、継続的に活動をできるようにした。

- ・数字の歌遊び
- ・数字・数について知る
- ・形・絵のカードを使い数字との同じ組み合わせを作る
- ・お買い物ゲーム
- ・運動器具を使って体を動かす
- ・好きな画用紙を選んで、隠されたカードを探して見つけたカードに書いてある形を作る。
- ・運動器具を使ってサーキットを楽しむ
- ・運動器具を使うすくわくのゲーム説明

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・形、絵のカード
- ・活動用のブロック、積み木など
- ・活動用のテーブル
- ・ホワイトボード
- ・カラーボール
- ・画用紙等

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・頭にカードを付けて 1-10 の数字順に友達と協力して一列に並ぶ
- ・数字・図形のカード・絵柄のカードをまぜて広げて必要なカードを個人・グループで探しながらパネルを完成させる
- ・子どもたちと普段遊ぶおもちゃを使用しながら、形の名前を確認した。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

数を作る際に答えが 1 つではなく複数あることに気づき理解していくことの喜び、驚きを声に出して楽しむことができた。

全員で協力して並び成功した時の楽しさもあり共感することができた

活動の中で他の子に援助したり、競争することでより早くやり遂げようとして盛り上がった。

子ども同士「いくつみつかった」「わたしは 3 こだよ」と言った言葉が聞こえた。また、形を作るときに、「ピザの形みたいだね」と声をかけると、「わかった」と形を作り上げることができた。

保育者の問いに答える姿が見られた。グループ単位で活動する際には各グループを回り、ヒントを与えたり答えを惑わせるような声掛けをしながら、友達同士で考え協力して活動できるように促した。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子どもたちが自ら考え、思考力を膨らませたり、友達と協力して達成することをとても楽しんでいました。さらに活動を進めていくと友達にヒントをあげて援助してあげる姿が見られました。ゲームや遊びの中で取り入れていくことでより数や形に興味・関心を示す姿が見られまだやりたいと言う子が多かった。

30分程度の時間は子どもたちにとって丁度よく集中して楽しむ姿があった。